

今回のトレーニングドッグ



ひな

Training

セラピードッグへの道

セラピードッグの
基本トレーニング

今回のテーマ: **レクリエーション練習**
【おうちにかくれんぼゲーム】

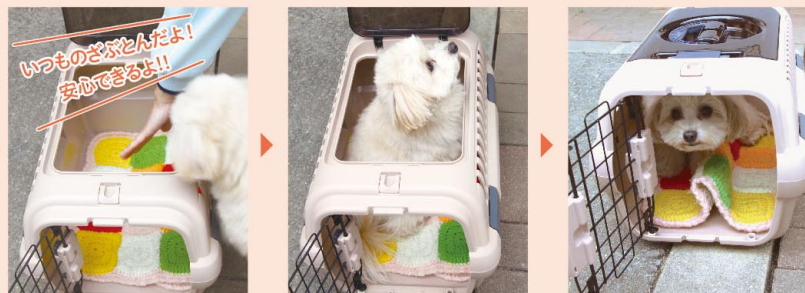
目標 指示に従ってキャリアに入ることができる。
キャリアの中で落ち着いていられる。

☆トレーニング☆
ドッグセラピー事業部の
セラピードッグとセラピストは、
毎週1回、
「My Dog Training School」の
笠木恵子先生(家庭犬訓練士)の
トレーニングを受けています。

やってみよう!
Let's try!!

Step1

キャリアに近づく



キャリアの中に目印のざぶとんを敷き、安心できることを教えます。

Step2

キャリアに入る



目印のざぶとんに座らせます。 キャリアを指さして「ハウス」と指示します。 指示に従ってドッグが自らキャリアの中に入れば、しっかりとほめます。

※最初は、ざぶとんとキャリアの距離は1m程度。慣れたら少しずつ距離を広げていきます。
※キャリアに入ることが楽しい、落ち着くという経験を学習しておくことで、ドッグの負担やストレスを減らすことができます。

Check!

レクリエーションに応用

集団セラピーのときにキャリアを持っていきます。トレーナーの指示に従ってドッグがキャリアの中に入り、トレーナーが声をかけたらミャーキャットのように顔をびよこっとして練習しておきます。



地震や水害などの災害時でも安心

ドッグが自らキャリアに入れるようにトレーニングしておく、電車やクルマなどの乗り物でドッグを移動させるときにスムーズで安心。また自然災害など、イザという時でもすばやく落ち着いて避難できます。普段からトレーニングしておきたいですね。



ORANGE
JACKET
Dog Therapy

燦々 Sansan

有限会社かりゆし
ドッグセラピー事業部 会報誌

Vol. 25 / 冬号
2017年

Contents

- 私たちのドッグセラピー
ドッグを「介在させる」とは?
- セラピードッグの育成
フードに依存しない
- ドッグセラピーの現場から
集団ドッグセラピー
- トレーニング



【私たちのドッグセラピー】

ドッグを「介在させる」とは?

なぜ、ドッグにさわられるだけでは
自発性が引き出されないのか?



心と心の橋渡し

私たちのドッグセラピーでは、ドッグを「トリガー（自発的行動を引き起こす引き金・きっかけとなる刺激）」とすることで、利用者様の記憶や情動に働きかけ、自発的な感情や行動を引き出しています。ところが、他人が利用者様の手を取ってドッグにさわらせても良好な変化は起きません。反対に強く抵抗されてしまう恐れがあります。なぜでしょうか。

一般的に人間は、他人から押し付けられたことに「抵抗」を感じます。しかし「自分で選んだ」「自分で納得した」場合は、自発性や自発的行動が引き出されます。

利用者様は「ドッグとふれあう」という刺激に反応して自発的な行動ができるようになるのではありません。「ドッグとふれあいたい」「ドッグのためにやってみよう」と自分自身の意思が働き、納得して初めて、自ら動き始めるのです。まるでイソップ童話の『北風と太陽』のようです。私たちスタッフは、ほかほかとあたたかな愛情で見守りながら利用者様の心と身体が動き始めるのを待ちます。それがドッグを「介在させる」ということであり、真のセラピーにつながります。

ドッグが大好きという利用者様は、最初からドッグに対し、いろいろな反応が見られます。いっぽう、最初は無関心だった利用者様が、2回・3回と回を重ねてようやく自分の意思で動かれることもあります。その方独自のタイミングを待つことは、波のような感情のうねりの中に船をこぎ出すときの手応えに似ています。「いまだ!」という的確なタイミングがあります。それを見極めるのは人間です。ですから、ドッグばかりに気をとられると利用者様の表情の変化を見逃してしまいます。とはいえ、利用者様だけに集中するとドッグの集中も他所に行ってしまいます。私たちの役目は、ドッグとパートナー関係を築き、ドッグが出すシグナルも確認しながら利用者様の心に寄り添って心の中や動きを理解し、利用者様の心とドッグの心が通い合うための橋渡しをすること。利用者様とドッグとの間に関係性ができて初めて、ドッグセラピーが成立します。



おしらせ

いきがいライフたかまつ 「おかやまオレンジカフェ(認知症カフェ)」 集団ドッグセラピーをご活用ください! (毎月2回)

開催日時 毎月第2・4水曜 13時~15時
※ドッグセラピーは13時30分頃から20分程度

喫茶協力 「ひまわりの会」(備中高松地域ボランティア団体)
約30名のボランティア会員が交替でカフェを運営してくださっています(1回10数人)。お菓子は、高齢者様の好みや安全などに配慮し、当施設が選んでいます。

メニュー ドリンク(お菓子付き)
各100円
※コーヒー、紅茶、玉露ほか

席数 24席

場所 いきがいライフたかまつ 1階・地域交流ホール
(岡山市北区立田586-1/tel.086-287-8880)



(お問い合わせ)

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

http://www.therapydog.jp

参加申し込み先

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部 E-mail dog_therapy@ikenaga-group.jp ※見学、ご家族の付き添いも遠慮なくご連絡ください。

セラピードッグの育成について

【フードに依存しない】

ドッグはパートナー。想いは必ず通じる

セラピーの現場では、私たちトレーナーは基本的にコマンドやハンドターゲットでドッグに指示を出します。フード(ごほうび)も持参しますが、それは、フード係のためや、セラピー後にあげるためのものであり、基本セラピー中にごほうびとしてフードを使用することはありません。

私たちにとって、セラピードッグは大切なパートナー。だからトレーニングは、ドッグを服従させたりコントロールしたりするためのものではなく、ドッグ自身が「次は何をしようかな?」「こんなことをしたらいいのかな?」と考えながらする方法で行っています。ドッグが、私たちとセラピーを行うことが「好き」と感じるように内容を工夫します。

このように、ドッグとトレーナーが信頼関係を築くこと、ドッグから尊敬される人になってドッグと心を通わせることがとても重要です。何をしたいのか、ドッグに何をしてほしいのかをきちんと伝えられる間柄になりましょう。



ドッグはすべて「経験学習」 わかりやすいタイミングでわかりやすい指示を

ドッグたちのコミュニケーション方法は言葉を使わないので「こういうことをしたら、こうなる」という経験によって学習します。さらにドッグは、好きなことは何度でも繰り返そうとします。反対にきらいなこと・嫌なことは避けようとしています。

私たちは、この習性を応用し、心理学・動物行動学の「オペラント条件付け」(図1)の法則に基づいてアプローチ。好ましい行動が強化される(増える)ように、強化子・罰子を組み合わせさせてつづけます。「オペラント条件付け」には、正の強化・正の罰・負の強化・負の罰の4つのパターンがあります。ドッグが喜ぶことをすることが強化。報酬となるフードや、遊んであげることなどが強化子です。いっぽう嫌がることをすることが罰で、嫌がること・ものが罰子。ただし、何が強化子・罰子となるかはドッグの個性によって異なります。

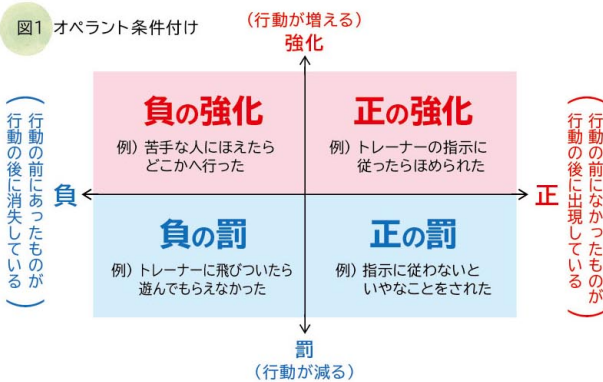
このとき、フード(ごほうび)に依存すると、長期的にはドッグの行動がコントロールできなくなるので注意が必要です。「いつごほうびが出るかわからないけど、あなたと一緒にこれをしたい」「次はこれかな?」とドッグが思い、一生懸命やってくれる、それが求められる結果です。

ドッグは経験で学習するので、ある経験から時間が経ったあとでほめられても(怒られても)理解できません。だからドッグが成長できるかどうかは、見極める人次第。タイミングがとても大事になります。

私たちはドッグの気持ちがポジティブになるように「正の強化」と「負の罰」を使っています。主体はほめるしつけです。してほしくないことを伝える時には「それじゃなくて、これよ」としてもいいことに換え、それをした時にうんと大きめにジェスチャーも交えてほめちぎります。



図1 オペラント条件付け



トレーナーに求められること

【Grit!】

- おだやかで“き然とした”態度
- ドッグが大好きで人と接することも好き
- ドッグという命に対する責任感
- トレーニングを続ける忍耐力と体力
- ドッグをよく観察し、気持ちやシグナルを読み取ろうと努力するチカラ

column

コラム ドッグセラピーの現場から

vol. 10



集団ドッグセラピー

社会性と生活の質(QOL)の 向上が目的

ドッグセラピー事業部は「オレンジカフェ」のほかに、生長グループの入所者様を対象に「集団ドッグセラピー」を実施しています。定期的に複数の入所者様に集まっていたり、訓練したセラピードッグと、ゲームや運動、リズム遊び、クイズなどを楽しんでいただいています。

目的は、元気づけや、自然な動作の誘引による機能維持・機能回復訓練、ドッグとのふれあいを通じた緊張の緩和、豊かな感情表出の促進、発語・発話の増加促進、他者との交流促進など。楽しい時間を共有していただくことで、入所者様同士のコミュニケーションが増えたり、ボール投げや花輪リレーをすることで通常は動かさない手足を自分の意思で動かすことがリハビリにつながったりします。

すなわち社会性を取り戻すだけでなく、生活の質(QOL)の向上も目的としています。

個人別記録表の作成と評価

私たちの集団ドッグセラピーが単なるレクリエーション活動と大きく異なる点は、毎回「個人別記録表」を作成し、参加者様一人ひとりの記録と評価を行う点でしょう。

自発的に楽しんでおられる方もいらっしゃる、遠い場所からドッグをずっと見つめておられる方、強く拒否される方、離れた場所であつづけておられる方など、反応はさまざまです。さっきまで無関心だった方が急にドッグに近づかれたり、反射的に風船に手を伸ばされたりすることもあります。そのようなセラピー中の様子(活動記録、日常と比較した相違点、心や体を動かされたタイミングなど)を記録し、経過を追って評価しています。

とくに目の強さ・目線の評価は重要です。たとえば、ドッグをずっと見ておられる方の場合、集中されているのか、緊張されておられるのか、目を見ればその方の心の中がある程度、理解できます。ゲームに参加されなくても、その場でどのような行動を起こされたかという行動そのものに意味があります。そこから私たちが心の中を読み取っているのです。だから私たちは、ご本人の意思に逆らってゲームに参加させることをしません。じっとしておられる方には、機会を見てドッグといっしょに近づいて挨拶し、様子を見させていただきます。

対象

- 認知症高齢者の方

対象症例

- 意欲低下
- 自発行動の低下
- 筋力低下

期待できる効果

リハビリ効果

- つかむ・投げる・あげる・伸ばす・曲げるなどの運動を、自然に、かつ自発的に行うことによる機能訓練(筋力の維持・回復・向上など)。
- 発声発語の促進
- 空間認知の促進 など

社会的効果

- 自発性の促し
- 参加者同士で協力して行うことによる他利用者間交流、社会参加意欲の向上。
- コミュニケーション活動の促進
- メンタルケア など

実施における留意点

- 集団の理解…事前に参加者全員の人物把握を行います。

確認事項

- 1 フェイスシート(疾患・障害等の情報)
 - ・目の不自由な方(視力・視界の状態)
 - ・難聴を有する方(聴こえる耳は右か左か)
 - ・手足や体感機能に障害を有する方
 - ・認知症や抑うつ傾向の方
- 2 犬アレルギー・動物アレルギーの有無
- 3 犬がこわいか、こわくないか
 - これらに十分配慮したうえで、スタッフ・職員の協力を得て行います。

具体的な実施内容

- 1 ふれあいを通じたドッグセラピー
- 2 手・足・頭を使う機能訓練を目的としたドッグセラピー
- 3 自然誘発的な運動の促しを目的とした、レクリエーションドッグセラピー

ドッグに必要なトレーニング

- レクリエーション活動
 - ・かくれんぼゲーム
 - ・花輪リレー
 - ・お手玉
 - ・服を着せる



花輪リレーでは、バトンの代わりに「造花の花輪」を使います。隣の席の人に手渡しでリレーしていただき、最後の方にはドッグの首にかけていただきます。

- 風船バレー
 - ・ボールをキャッチ
 - ・ジャンプ



「風船バレー」で使う風船は、もしも割れると大きな音がするので、割れないように布で作った袋の中に入れてあります。布製なので洗濯可能です。ドッグの歯が当たっても割れません。